第2学年2組 国語科学習指導案

平成26年12月3日（水）第3校時

指導者 深谷市立豊里中学校

教諭 神田 さおり

1 単元名・教材名 古典を楽しむ「平家物語」

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項 (読むこと)】	学習内容	単元・教材名	学習活動と関連する他領域等の指導
・作品に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いを想像すること。	・当時のものの見方や考え方 ・登場人物の言動に込められた思い	「タオル」(6月) 「夏の葬列」(9月)	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○「竹取物語」 ○「近代の短歌」

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本校の生徒は、穏やかで明るく、学習意欲の高い生徒が多い。しかし、学習を苦手とする生徒との二極化が激しく、「やってもわからないからやりたくない」と考えている生徒もいる。そのような生徒たちも、グループ活動などを取り入れると、自分なりに参加しようとする態度が見られることもあり、できた問題や事前に「いい意見だね」と声をかけたものについては、発表する意欲を見せる。

古典の学習については、多くの生徒が楽しんで学習しており、意欲は高い。特に暗唱などは、達成感を感じることも多い様子で、1年次では竹取物語の冒頭部分の暗唱だけでなく、昇天の場面や百人一首の和歌の暗唱など、発展的な課題についても意欲的に取り組んでいた。しかし内容を読み深めていく活動になると、先ほど述べた通り、あきらめが先に立ち、活動がうまく進まなくなってしまう生徒も多い。そのため、これまでの学習では作業に取り組ませながら、その作業を進めることで読みが深まっていくような学習を行うように心掛けてきた。

本単元で扱う「平家物語」は琵琶法師によって語り物として人々に享受されていた。この場合の「語り」は、ただ話して聞かせることではなく、琵琶の伴奏に乗せ、旋律をつけて歌うように「語る」ということである。そのため、対比や繰り返し、七五調に近い韻律、「よつびいてひやうど放つ」「むずと組んでどうど落つ」などの印象的な擬声語・擬態語などが多用され、通常の散文とは異なるリズム感を持っている。現代の私たちが朗読する際にも、そのリズムは十分に感じ取ることが期待される教材である。

そこで本単元では、「平家物語」という歴史物語を、言葉のリズムを楽しみながら、朗読することで内容の理解が深まるように学習させていきたい。そして読みを深め、登場人物の心情を「心の言葉」として表現しながら朗読するという言語活動を通して、古典を学ばせていきたい。朗読の中で感じ取った登場人物の思いを、言動や情景の描写から読み取り、自分の言葉で想像して書くことで、当時の人々の思いを感じ、古典の世界を深く楽しむことができると考える。

3 単元の目標

(1) 古典の世界を楽しみ、「平家物語」に登場する人々の思いを感じようとしている。

(関心・意欲・態度)

- (2) 「平家物語」に表れているものの見方や考え方について読み取り、自分の考えを深めることができる。(読むこと)
- (3) 「平家物語」に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いを想像しながら読むことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準や学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・古典の世界を楽しみ、「平家物語」にこめられた思いを感じようとしている。	・「平家物語」に表れているものの見方や考え方について読み取り、自分の考えを深めている。	・「平家物語」に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いを想像しながら読んでいる。
学習活動に即した評価規準	① 仮名遣いの違いや言葉の響きの面白さを感じて朗読し、登場人物の思いを感じようとしている。 ② 他の場面の文章を読み、積極的に朗読をしようとしている。	① 冒頭の部分を読み、「平家物語」に表れている「無常観」について理解している(理解を深めている)。 ② 合戦の様子から、(時代背景をふまえて)当時の人々のものの見方や考え方を読み取っている。 ③ 登場人物の思いを読み取り、(自分の体験と比較し、)自分の考えを深めている。	① 冒頭の部分を読み、当時の人々の「無常」について、(具体的に)想像している。 ② 合戦の場面を読み、(表現に即して)登場人物の思いを想像しながら読んでいる。

5 指導と評価の計画 (全 7 時間)

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○「平家物語」について知る。 ○冒頭の範読を聞き、内容を理解する。 ○歴史的仮名遣いを復習しながら、冒頭を音読する。 ○「平家物語」について、感じたことをまとめ、発表する。	・「平家物語」の時代背景 ・歴史的仮名遣い ・「平家物語」のあらすじ ・「平家物語」の感想	アの① ウ① オの① ・机間指導による観察 ・発言の様子や態度の観察

2	<p>○「敦盛の最期」の範読を聞き、内容を理解する。</p> <p>○「敦盛の最期」を音読し、古典のリズムや物語の面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉音読 ・役割を決めて朗読 <p>○登場人物が、それぞれ胸に秘めている思いについて考え、プリントに書き込む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「敦盛の最期」のあらすじ ・古典のリズム ・「平家物語」の響き ・会話や情景描写から読み取れる登場人物の思い <p>直実 敦盛を尊敬しつつも、不憫に思い、助けたいと願う</p> <p>敦盛 死を覚悟し、最期まで潔くあろうとする</p>	<p>ア① ウの②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・プリントによる考察
3	<p>○「敦盛の最期」の朗読練習をする。</p> <p>○グループごとに、登場人物が胸に秘めている思いについて話し合い、登場人物の「心の言葉」を台詞化して、朗読の解説文を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典のリズム ・言動や情景描写から読み取れる登場人物の思い ・想像される登場人物の心の言葉 ・解説文の作り方 	<p>アの② ウの② オの②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・プリントによる考察 ・発表の様子や態度の観察
4	<p>○読み取った思いをもとに工夫した朗読を練習し、発表する。</p> <p>○「平家物語」の他の場面の資料を読み、グループで話し合っ、朗読する場面を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読の仕方 ・それぞれの場面のあらすじ 「宇治川の先陣争い」 「実盛の最期」 「扇の的」 	<p>例 敦盛殿、なんとも潔いお方である。しかし我が子のような歳で討たれてしまえば、殿のお父上もたいそうお嘆きになるはず。私だって、そんなことはしたくない。なんとかお助けしたいものだ……。</p>
5	<p>○グループごとに、選んだ場面を音読し、内容を理解する。</p> <p>○登場人物の思いを読み取り、「心の言葉」を台詞化して、朗読の解説文を作る。</p> <p>○読み取った思いをもとに朗読を工夫し、練習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ場面のあらすじ ・その場面に至る経緯 ・歴史的背景 ・登場人物の思い、心の言葉 ・朗読の仕方 ・朗読の工夫 	<p>アの①② ウ② オの②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・プリントによる考察 ・話し合いの様子の観察 ・練習の様子の観察
6	<p>○朗読の練習を行い、発表の準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朗読の練習 ・朗読の工夫 	<p>アの①② ウの② オの②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの様子の観察 ・取組の様子や態度の観察

7	○『平家物語』朗読発表会 を行う。 ○「平家物語」について、感じ たことをまとめる。	・朗読の批評 ・「平家物語」登場人物の思い ・当時の人々と自分との共通 点、相違点	アの① ウの③ オの② ・机間指導による観察 ・ノートによる考察
---	---	--	--

6 本時の学習指導(本時 5 / 7時)

(1)目標

- ・古典の世界を楽しみ、「平家物語」の中の、自分たちが選んだ場面について、登場人物の思いを感じようとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・「平家物語」に表れている考え方を読み取り、登場人物の気持ちを「心の言葉」や朗読の工夫で表すことができる。 (読むこと)
- ・当時の考え方や、登場人物のおかれた状況をふまえ、気持ちを想像することができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2)展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫
1 暗唱を行う。 2 学習課題を確認する。	○古典のリズム	・評価カードを活用し、積極的に暗唱に取り組ませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">登場人物の思いを込めて、「平家物語」の朗読を発表しよう。</div>		
3 グループごとに、選んだ場面について音読練習をする。	○音読 ○あらすじ ○登場人物の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">評価場面 1</div> 〈学習活動に即した評価規準〉 アの② ウの② オの② 〈評価方法〉
4 登場人物の言動や情景描写に着目し、登場人物の気持ちを想像して、プリントに書き込む。	○情景描写から読み取れる、登場人物の状況 ○言動から読み取れる登場人物の心情	・机間指導による観察 ・プリントの考察 〈手立て〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">規準に達しない生徒</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〈扇の的〉 「をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。」 →「ああ、なんということだ。こんなに波が激しいなんて」 『この矢はづさせたまふな』 → 「この矢を扇に当ててくれ。」 「平氏のかたには音もせず」 →「なぜ射たのだ。もう戦は終わったというのに…」 「えびらをたたいてどよめきけり」 →「おお、さすがは与一。射られないものなどないのだ。」 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">規準に達している生徒</div> ・「えびらをたたいてどよめきけり」のように、心情が読み取れる表現に着目させる。 ・気持ちを表す言葉を挙げ、あてはまるものを考えさせる。 ・時代背景や登場人物が置かれている状況を踏まえて、心情を考えさせる。

<p>5 グループごとに、登場人物の心の言葉を想像し、プリントに書き込んで、朗読の解説文を作る。</p>	<p>○時代背景から想像される、登場人物の心情</p> <p>○言動から読み取れる登場人物の心情・心の言葉</p> <p>○状況や時代背景から想像される思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情景描写、言動、時代背景、状況など、事前に示してあるポイントに沿って考えさせる。 ・時代背景や、それぞれの場面に至るまでの経緯は、事前に掲示物などで示したり、写真やイラスト、図などでわかりやすく示したりして、理解を深めさせる。 ・4の活動で考えた心情に合わせて、どんな言葉にすれば効果的に気持ちが伝わるかを考えさせる。 ・本文の前後の状況や、登場人物の特徴がわかるような説明を入れ、朗読を発表する際の助けとなるように考えさせる。
<p>〈扇の的〉</p> <p>「八島の戦いで、平家からの挑発にのった源義経から、扇を射ることを命じられた弓の名手那須与一。決死の覚悟で、扇をねらう。</p> <p>『ああ、なんということだ。こんなに波が激しいなんて。しかし私は、あの扇を射なければならない。ああ、誰でもいい。この矢を扇に当てさせてくれ。でないと私は...』</p> <p>『なぜ射たのだ。もう戦は終わったというのに...』</p> <p>『おお、さすがは与一。この者がいれば、射られないものなどないな。』見事に扇を射貫いた、那須与一。源氏も平家も、その腕前に感嘆した。しかしその後、ある出来事が</p>		<p>評価場面 2</p> <p>〈学習活動に即した評価規準〉</p> <p>アの① ウの② オの②</p> <p>〈評価方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 2 ・プリントの考察 <p>〈手立て〉</p> <p>規準に達しない生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合戦の場面の状況に着目させ、心の言葉を想像させる。 ・会話のように、語りかける口調で書かせる。 <p>規準に達している生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源氏と平家の立場の違いにも着目し、心の言葉を想像させる。
<p>6 朗読の工夫を考え、練習を行う。</p>	<p>○朗読の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担 ・声の調子、間の取り方の工夫 <p>○古典のリズム</p> <p>○登場人物の思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台本を色分けするなど、工夫して読ませる。 ・群読の学習を想起させ、複数で読む部分を作らせるなど、朗読の工夫についても考えさせる。

7 途中経過を発表する。	○朗読の仕方 ○他のグループの工夫	・一部分のみの発表とし、お互い参考にさせるが、似過ぎてしまわないよう気をつけさせる。
8 本時のまとめを行う。	○描写からの心情の読み取り ○朗読の仕方の確認 ○次時の流れの確認	・次時は、朗読劇の録画を行うことを伝え、さらに工夫できる場所はないか、考えておくようにさせる。

(3) 板書計画

<p>悲しい 切ない むなしい 悔しい 無念 残念 かわいそう 恥だ しかたがない こわい これまで：</p>	<p>プライド いさぎよい 武士として 認められた 安心 味方を助けられた</p>	<p>◎活動 ①音読をして、内容を理解する。 ②登場人物の気持ちを想像して、「心の言葉」を書き込む(個人) ③グループごとに、サブタイトル解説文を作る。 ④朗読練習。</p>	<p>12 / 3 平家物語 登場人物の思いを込めて「平家物語」を朗読しよう。</p>
---	---	---	---

敦盛の最期

① 汀にうち上がりんとするところに、
みきわ

熊谷は馬を

② おし並べてむずと組んでどうど落ち、
どしんと

① とつておさへて首をかかんと甲を
取ろう
② エ

おしあふのけて見ければ、
あふおけにしま
顔
② 年十六七

はかりなるが、
若武者
薄化粧して、
歯を黒く染めてる
かねぐらなり。

① わが子の小次郎がよはひほどにて、
の 年 くらいで

① 容顔まことに美麗なりければ、
顔のたち
美しくつ
た
② ようかん

① ② いづくに刀を立つべしとおぼえず。
どにに
突きさしたらよいか
わからない

③ そもそもいかなる人にましまし
いったい
どうしよう
身分の
いらんやい

ポイント①
「行動」から
「気持ち」を読む。

② 首をとろうとした
のにできな
迷い、悲しみ

心の言葉
「このようにまだ若く
美しい少年を
簡単に殺して
いいはずがない。」

この殿が
討たれぬと聞いて、いかばかりか嘆き
お嘆きに
なげ

はるこたろう
たまはんずらん。あはれ助けたまつら
あめ
申し上げ

はい
「はや」と思ひて、後ろをきつと見ければ、
るこ
と

土肥、梶原、五十騎ばかりで続いたり。
つた

☆読みどした「心の言葉」を生かして

「敦盛の最期」のサブタイトル、解説文を書こう。

① サブタイトル
「敦盛の決意・直実の情け」

◎ 解説文

(直実になりきって)

敦盛殿、なんともいさぎよいお方である。しかし、
我が子のような歳で討たれまえば、殿の
お父上もたいそうお嘆きになるはず。私だつて
そんなことはしたくない。なんとかお助けしたい
ものだ……。

ポイント④
登場人物がおれま
いる「状況」から
気持ちを読む。

①一人だけばら助け
られるかもしれないと
考えたが、味方が
やってくるので、きど
無理だろう。

落胆・がっかり

「心の言葉」
「何とか助けて
やりたが、それも
できそうにない。」